

論文審査の結果の要旨

論文提出者氏名 上田直子

上田直子氏の「援助とソーシャル・キャピタル～中米シャーガス病対策からの考察」は、開発途上国への援助において、援助プロジェクトという外部からの一時的な介入が去った後にも、プロジェクトの成果がその地において展開し続けることが可能か、またそれを可能とする方法はどのようなものか、という問いに答えようとするものである。

この問いに答えるために、本論文は国際協力機構 JICA による中米ホンジュラス共和国の寄生虫感染症であるシャーガス病対策プロジェクトを調査対象とし、そのプロジェクトが終了した後も援助展開が可能であり続けた理由を、ソーシャル・キャピタルという理論装置を用いて検証している。

本論文は全 7 章からなる。そのうち、第 1 章「本研究の意義と目的」、第 7 章「結語：成果の持続に向けたソーシャル・キャピタルへ」に挟まれた 5 つの章が本研究の主部をなす。まず第 2 章「途上国援助と感染症対策」では、援助をめぐる国際的な潮流を辿り、本研究における主たる理論装置であるソーシャル・キャピタルが重視されるに至る経緯を明らかにした後、開発援助のうちで本論文が対象とする保健分野における援助の特徴と意義を示す。

第 3 章「ソーシャル・キャピタル」は本論文の理論的枠組みを示すものであり、ソーシャル・キャピタル概念に関わる代表的な論者による議論を整理した後、それに対する批判と新たな可能性を呈示している。そしてこの章の後半では、ソーシャル・キャピタルが持続性の面で援助プロジェクトに貢献し、本論文の対象である保健分野の援助において重要であることを明らかにする。

第 4 章「シャーガス病とその対策」は、「顧みられない熱帯病 NTDs」の一つであるシャーガス病という感染症についてまとめた部分であり、シャーガス病とその媒介昆虫であるサシガメについて概観した後、その疾病の社会的な位置づけと、シャーガス病対策とその歴史について詳細に紹介している。

第 5 章「JICA シャーガス病対策プロジェクト」は本論文が対象とする援助プロジェクトの内容を示す部分である。プロジェクトが展開するに至る前史、プロジェクトの展開過程の詳細を呈示するとともに、プロジェクトが貫いた「可

視性」「現場への同伴」「複層での能力開発」「応答の交換」について論ずる。

第6章「プロジェクトのソーシャル・キャピタル」では、開発援助とソーシャル・キャピタルの関係について、これまで実施されたさまざまな開発援助プロジェクトを材料に検討する。そして、本論文において最終的にキーとなる概念として「応答の交換」を抽出し、その適用可能性について論じている。

そして最終の第7章「結語」をもって論文を締め括っている。

本審査委員会が認める本論文の意義は、第一にプロジェクトという素材を具体的かつ丁寧に扱い、それを理論的に検討することによって他の開発援助プロジェクトにとって適用可能にするという姿勢を貫いていること、第二に自らプロジェクトにコミットしながらもそれから一歩距離をとり、自らが当事者でありかつ調査者であるという立場を明確に自覚した研究であること、第三に一般論ではなく特定の事例にその適用範囲を限定する具体的な研究としたことによってソーシャル・キャピタル論の発展に寄与する素材を提供したこと、そして第四に「顧みられない熱帯病 NTDs」であるシャーガス病を対象にすることによって、この疾病に関する新しい概念を提供したことが、感染症研究の将来に資することが大きいこと、である。

ただ、本論文に全く問題がないわけではない。審査委員からは、さまざまな概念を使用しながら概念間の関係の整理が不足していること、シャーガス病対策の事実関係の把握に不十分な点が見られること、という指摘があった。しかしながら、これらの問題も本論文のもつ学術的貢献を大きく損なうものではなく、本審査委員会は全員一致で博士（国際貢献）の学位を授与するにふさわしいものと認定する。